

	新選択科目(案)(世界史 に関わる探究科目)	歴史総合(仮称)	新選択科目(案)(日本史 に関わる探究科目)
ねらい	17世紀を前後して始まったイギリスの社会構造の変革が、大西洋沿岸地域相互のつながりをもたらしたことをつかみ、それが世界で最初の産業革命を始める前提条件を築いたことを追究する	欧米諸国と日本の工業化の進展を比較して、共通点と相違点を整理し、当時の各国内や世界の国家・諸地域間の関係にどんな影響を与えたか考察する	日本の急速な産業革命の進展について自ら問いを設け、変革前の産業段階を踏まえ、資本の蓄積の過程、国内外の諸状況を背景とした政策など、総合的な視点から追究する
問い	「16世紀末から経済危機に陥っていたイギリスが、なぜ世界初の工業化を達成したのか」	「欧米と日本の工業化の進展にはどのような違いがあるか。その違いは世界の情勢にどのような影響を及ぼしたか」	「欧米で長期をかけて進行した産業革命を、なぜ日本は短期で実現させることができたのか」
獲得する概念	農業革命、商業革命...等	資本主義, 帝国主義, 植民地, 富国強兵...等	豪農商, 殖産興業, 寄生地主制...等
授業展開 (概要)	<ul style="list-style-type: none"> ○物価動向と洗礼・埋葬者数の変化を資料から読み取り、当時のイギリスの状況を理解する ○危機の脱出方法の説明として有効な資料を選択して、その有効性を話し合う ○世界で最初の産業革命を始めることにつながった前提条件を説明する 	<ul style="list-style-type: none"> ○産業革命の時期や経緯、主体となる人々などについて、資料から欧米と日本の相違点を読み取る ○欧米諸国の工業化と日本の近代化に向かう政治変革との関係性を話し合う ○工業化の進展の差異が、世界の国や地域間の関係に及ぼした影響について説明する 	<ul style="list-style-type: none"> ○マニュファクチュアの進展や在郷資本の成長など、前提となる19世紀前期の国内産業の状況を資料から読み取る ○技術用語の日本語化、模範工場建設など、日本の技術導入の特徴とその意義について話し合う ○19世紀末の国内、対外的状況と経済政策、政商や在郷資本家などの動向を総合して説明する

* 上記は、高等学校歴史系新科目を想定して作成した授業イメージ(例)の1つである。生徒の実態に即して、さらに多様な授業イメージが考えられる。